

さんま通信

春

厚生中央病院だより 第29号 2012年

7階南病棟を紹介します

7階南病棟 看護師主任 原口美由紀

皆さんこんにちは。今回は、7階南にある総合内科病棟を紹介させていただきます。病棟が7階にあるだけに眺めはとていいです。病室によっては、天気の良い日には、富士山がきれいに見えます。特に明け方や夕暮れの富士山は、鮮明にその姿を映し出し、存在の大きさを感じることが出来ます。その眺めを見ながら、医師9名、看護師21名、助手2名、病棟クラーク1名で勤務しています。スタッフは比較的同年代が多いこともあり、とてもアットホームで雰囲気の良い病棟です。医師は、神経内科・血液内科・呼吸器内科・糖尿病などの専門医が多く、幅広い年代の患者様が入院しています。下は20代から、上は100歳を越える方もいらっしゃいます。高齢化社会に伴って100歳を越える方でも、治療後元気に退院していく姿も決して珍しくはありません。

また、検査や治療のための短期間の入院患者様も多く、入院自体が初めての患者様に対しても、病気に対する不安、治療に対する不安が少しでも緩和されるように、検査や治療のスケジュールを適宜お伝えし、少しでも疑問点があれば、医師に相談し説明を行うよう心がけています。

スタッフ全員が、患者さま中心で物事を考え行動し、思いやりをもちながら仕事に取り組みせて頂いています。

患者様にとって少しでも快適な入院生活を送れる様に、私たちは考えて治療、看護を行ってまいり、疑問などございましたら、気兼ねなくご相談ください。



目次 contents

7階南病棟を紹介します 1

がんを予防できる唯一のワクチン！
… 「子宮頸がん予防ワクチン」について ... 2~3

地域健康フェスティバル2012を開催しました ... 4

どうして
さんま通信なの？

目黒で野駈けをしていた殿様が、初めて召しあがる“さんま”にいたく感激。お城で再び食べてみたが、美味しくないと。即座に『さんまは目黒に限る！』
当院も“目黒のさんま”でありたいとの願いを込めて。

がんを予防できる唯一のワクチン！ 「子宮頸がん予防ワクチン」について

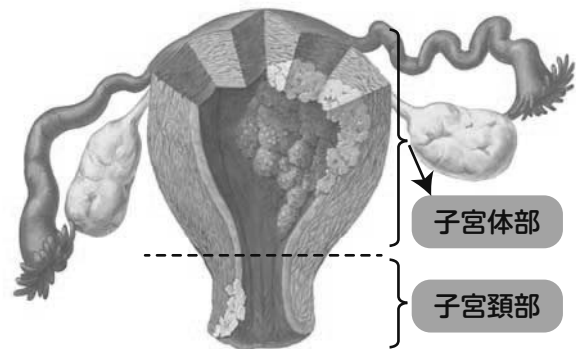
産婦人科医師

幾石尚美

1. 子宮頸がんが増えている現実を…

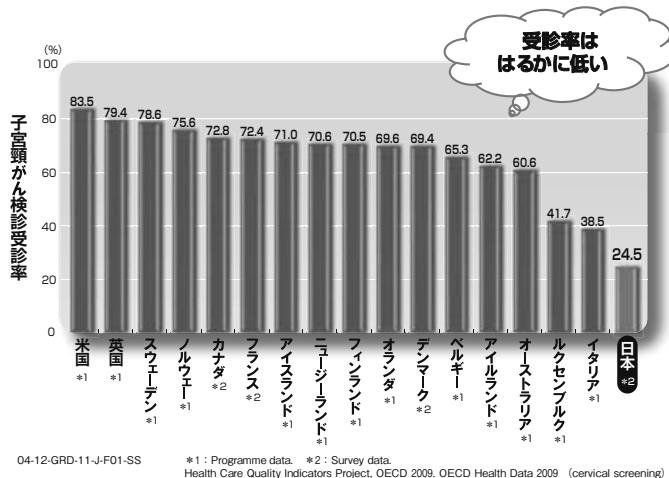
「がん」と聞くと、高齢者の病気…と思われるがちです。しかし今や、「子宮頸がん」の患者数は、若い女性の女性特有のがんの第1位になっており、身近な病気となっています。子宮頸がんとは、どんな病気でしょうか？図①に示すように、女性の骨盤内には、中央には子宮、その両側には卵巣・卵管があります。子宮本体を「子宮体部（たいぶ）」・腔側の部分を「子宮頸部（けいぶ）」と呼び、その子宮頸部に出来るがんを「子宮頸がん」と言います。ここでは、子宮頸がんとその予防ワクチンについてご紹介致します。日本の子宮頸がんの罹患数は、1年間に約10,000人で、特に20～30歳代の女性においてここ10年余りの間に2倍以上に増えています（図②）。さらに死亡数は、1年間に約3,500人で、1日約10名の女性が命を落としています。

子宮がんとは、何でしょう？



図①

世界各国の子宮頸がん検診受診率 (OECD加盟国における20～69歳の女性、2006年)



04-12-GRD-11-J-F01-SS *1: Programme data. *2: Survey data. Health Care Quality Indicators Project, OECD 2009. OECD Health Data 2009 (cervical screening)

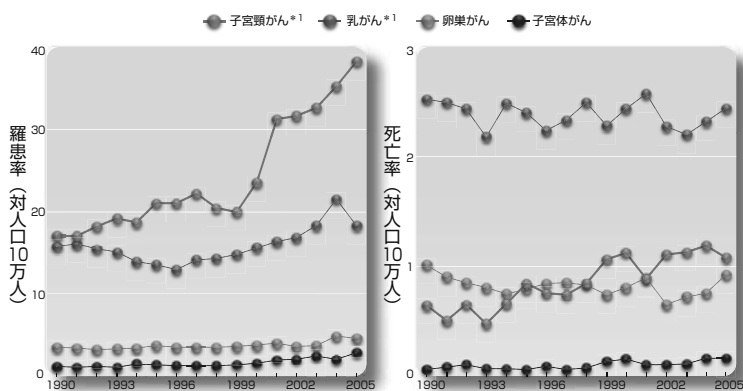
図② 日本は24.5%で欧米諸国の70～80%と比べて、極めて低い受診率であることがわかります。



2. 子宮頸がん検診は大切です。

「20歳を過ぎたら子宮頸がん検診」…は、日本の自治体では住民に呼びかけています。図③に示すように世界各国を見ると、日本は先進国ですが、子宮頸がん受診率が、欧米の先進国に比べ半分以下となっています。これは大変残念なことです。子宮がん検診を受けることで、がんの早期発見が出来る、しかし日本はそれが実践できていないため、罹患数・死亡数が増えているのです。子宮頸がんの自覚症状は、初期ではほとんど症状がありません。定期的のがん検診を受けることで、健康な状態を維持し、健康管理をすることが一番大切です。がんであっても、可能な限り初期に発見できるよう、検診に対する意識を高めることが大切です。

日本における20～30歳代の女性特有のがんの罹患率・死亡率



04-12-GPD-11-J-F01-SS

国立がんセンターがん対策情報センター 地域癌登録全国推計による癌罹患データ(1975年～2005年)より作図
国立がんセンターがん対策情報センター 人口動態統計による癌死亡データ(1958年～2007年)より作図

図③

日本の20歳から39歳の女性特有のがんの罹患率と死亡率の年次推移です。

子宮頸がんと乳がんの罹患率は共に増加傾向にあり、特に2000年以降の子宮頸がんの発症率の増加は、著しいものがあります。

また、子宮頸がんによる死亡率は、乳がんに次いで第2位で、徐々に増加の傾向を示しています。

日本における子宮頸がんは、発症年齢の低下(若年化)と罹患患者数の急激な増加がみられ、対策が急務であると考えられます。

3. 子宮頸がんの原因、HPV (ヒトパピローマウイルス) とは…?

子宮頸がんの原因の90%以上は、HPV (ヒトパピローマウイルス) といわれています。このウイルスは、日常的なウイルスですが、性交渉を介して女性の子宮頸部の細胞に感染が持続すると、細胞の中で変化が起こり、がんが発生すると言われていています。HPVの中で子宮頸がんになるリスクの高いタイプの「型」が約15種類あります。特に16型・18型は高リスクHPVの代表で、子宮頸がんの65%を占めると言われています。また、子宮頸がんの他に外陰部・膣のイボの原因と言われているHPV6型・11型は低リスクHPVの代表です。

4. 子宮頸がん予防ワクチンの接種を推奨します。

高リスクHPV16型・18型に対する免疫を作ることで、70%以上子宮頸がんの予防ができます。現在日本では2種類のワクチンがあり、1つには16型・18型の「2価ワクチン」、低リスクHPV6型・11型も含む「4価のワクチン」です。4価ワクチンは、性交渉の経験をもつ前の女性に接種することで、子宮頸がんの発生を100%予防できると言われています。現在日本で、がんを予防できるワクチンは、この「子宮頸がん予防ワクチン」のみです。

当院では、本年3月から「子宮頸がん予防ワクチンの専門外来」を開設致しました。当院では4価ワクチンを扱っています。火曜日14:00～16:00及び土曜日10:00～11:00の完全予約制です。ワクチンの接種スケジュールは初回接種後、2か月後、6か月後の全3回で、接種費用は1回あたり16,800円です。目黒区の中학생は、公費助成の対象となっており、当院はその接種対象施設となっています。また、接種対象年齢は中学1年生から45歳としています。この機会に、子宮頸がんについて改めて考えてみる機会を作ってみませんか? 詳細は、当院のH.P.をご覧ください。

地域健康フェスティバル2012を開催しました

2月26日（日）に目黒区医師会と共催で地域健康フェスティバルを開催しました。

多くの方々にご参加いただき厚くお礼申し上げます。

昨年まで開催されていた目黒区主催の健康フェスティバルの中止を受け、目黒区医師会との共催で行う初めての試みでありましたが、目黒区の後援をいただき盛況のうちにフェスティバルを終えることができました。予想を上回る方々にご参加いただき、お待たせした企画もありましたが、お帰りの際に「楽しかった、参考になりました。」などのお声をいただき、職員一同大変充実した一日となりました。

来年も皆様の興味ある企画を検討して、楽しんでいただけるようなフェスティバルにしていきたいと思います。多くの皆様のお越しをお待ちしております。



AED操作講習



なりきりキッズ写真館



計測ツアー（栄養相談）



よくわかる「認知症」

病院の理念

- ・ 私たちは、心の通った温もりを感じる医療を目指します。
- ・ 私たちは、組合被保険者ならびに地域の人々の健康と福祉に貢献します。
- ・ 私たちは、病院機能の充実を図り、サービス向上のため日々研鑽します。

基本方針

「健全な経営と安全で質の高い地域中核病院を創造する」

行動目標

- ・ 私たちは、患者さんから選ばれる病院を創り上げる。
- ・ 私たちは、効率的で質の高い安全な医療を構築する。
- ・ 私たちは、安心と誇りを持って働き、一番大切な人を受診させたい病院にする。

患者さんの権利

- ・ 最良の医療を受ける権利
- ・ 病気について、理解可能な言葉で説明を受ける権利とその説明に対して意見を述べる権利
- ・ プライバシーが守られる権利
- ・ 転院の権利
- ・ 診療情報の開示を求める権利

患者さんの義務

- ・ 自己の療養に関して病院職員に協力する義務



厚生中央病院